主題歌のソノシート付き

朝日ソノラマ
EM-380

プリンセス 小公女セーラ ①

主題歌
花のささやき



小公女セーラ ①
主題歌ソノシート付き
朝日ソノラマ

TVアニメ「小公女セーラ」主題歌

花のささやき

作詞＝なかにし礼
作曲＝森田公一
編曲＝服部克久
うた＝下成佐登子

私の胸の　片隅に咲いてる
小さな花に　名前はないけど
悲しい時は　赤い花びら一枚
目がしらに　あてるの
すると涙が　消えてゆく
私だって　泣こうと思ったら
声をあげて　いつでも泣けるけど
胸の奥に　この花あるかぎり
強く生きて　みようと思う

明日はきっと　今日よりはいい日と
祈りを込めて　星空を見ると
淋しくたって　一人ぼっちじゃないよと
ささやいて　くれるの
胸に咲いてる　赤い花
私だって　幸せほしいけど
ほかにもっと　大事なものがある
それが愛か　優しい心かは
生きてみれば　わかると思う

セーラ・クルーは

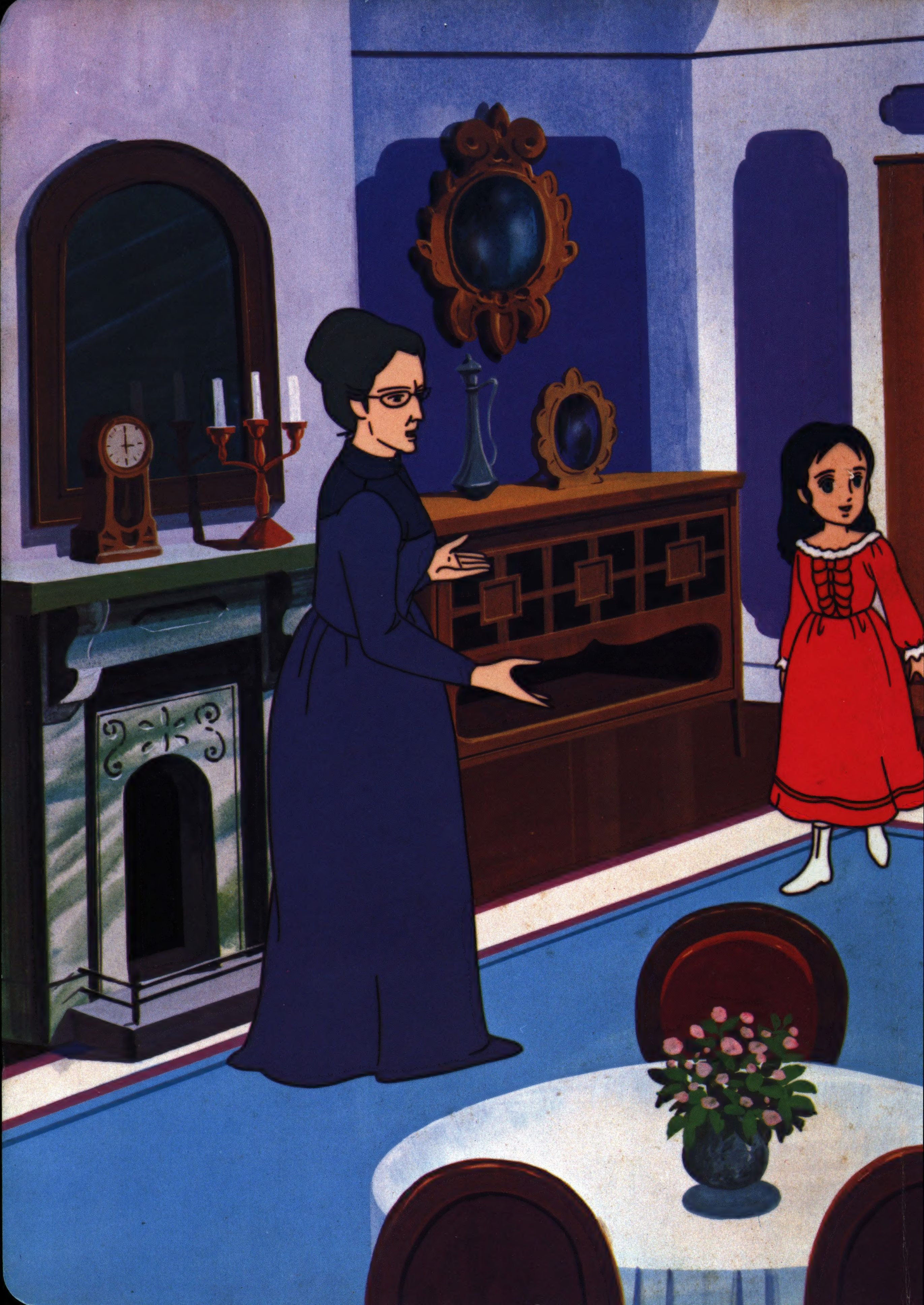


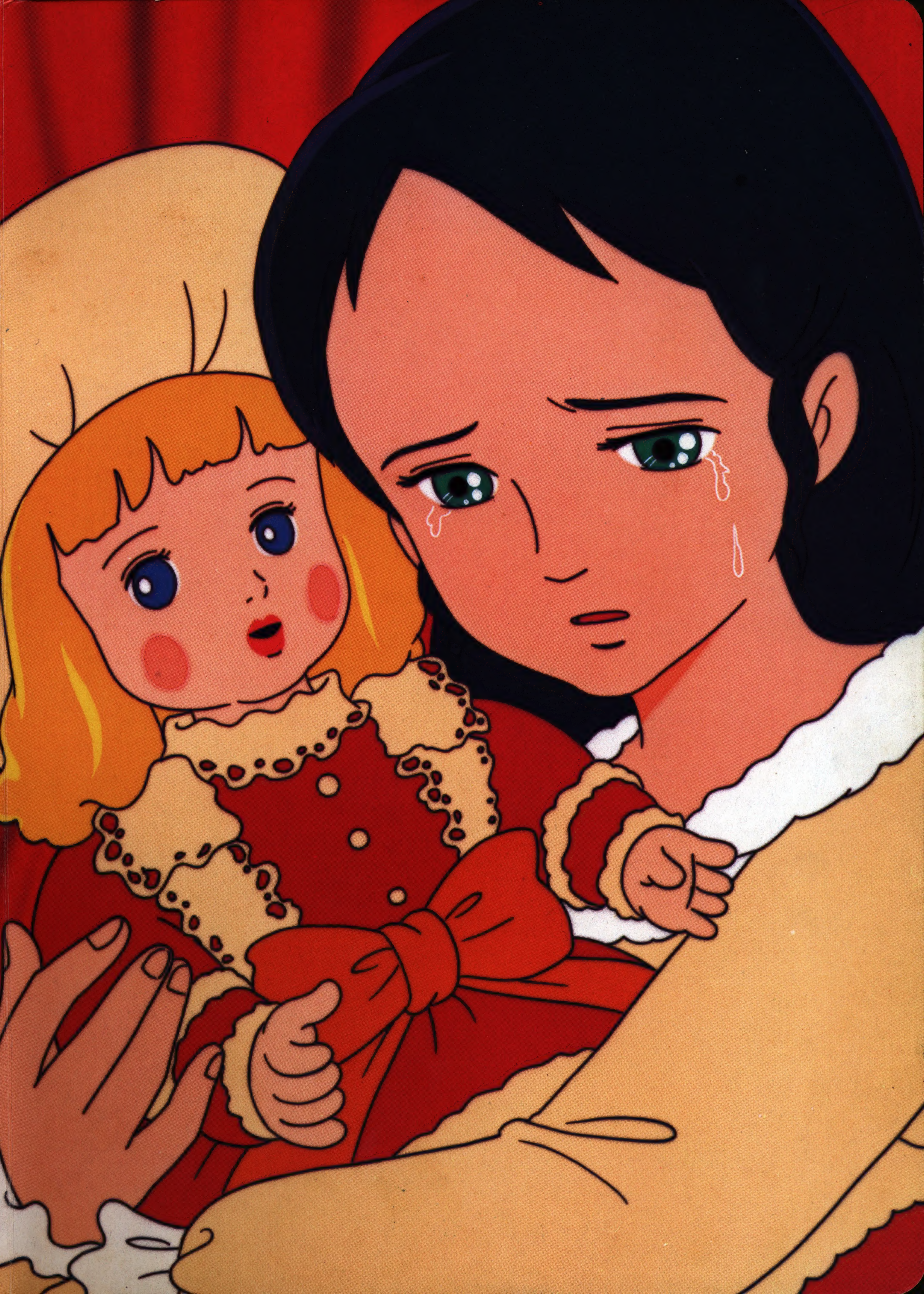


べんきょうの　ために
インドの　ボンベイから
イギリスの　ロンドンに
やってきました。
「おとうさま。あれが
ビッグ・ベンよ」
「ほら、こちらが
ウエスト・ミンスター
じいんだわ」
　まちを　ゆく　ばしゃの　なかから
セーラは　おとうさんに
しらせます。
「ほう。セーラは
ほんで　みた　けしきを
よく　おぼえているね」



セーラは〝ミンチンきしゅく
じょがくいん〟に
はいることに　なっていました。
おとうさんは
しごとの　つごうで
また　インドに
かえってしまうのです。
「これが　むすめの
セーラです」
「まあ。かわいい
おじょうさんですこと」
ミンチンせんせいは
セーラたちを　三がいの　へやへ
あんないしました。
なかなか
すてきな　へやです。







すっかり　あんしんした
おとうさんは　ばしゃに　のって
かえってゆきました。

「セーラ……セーラ……」
おうむの　ボナパルトが
よんでいます。
（わたし　がんばるわ。
また　おとうさまと　あえる
そのひまで……）

にんぎょうの
エミリーを　しっかりと
だきしめて　さびしさを
こらえていました。

がっこうの
べんきょうが
はじまりました。
セーラの
なくなった　おかあさんは
フランスじんだったので、
フランスごは　よく　できて
せんせいに
ほめられました。







おかねもちの　おじょうさんと
いうことで、セーラが
とくべつの　へやに
ひとりで　いることが
きゅうちょうの　ラビニアや
そのともだちの
ジェシーや　ガートルードは
おもしろくなかったので、セーラを
つめたい　めで　みていました。



こころの　やさしい
セーラは
ラビニアたちから
のろまだと
ばかに　されている
アーメンガードと
ともだちに　なりました。
アーメンガードが
おばさんに
あいに　ゆくとき
セーラも　いっしょに
ゆきました。



きれいな　はなや
くすりの　くさを
つくっている
イライザおばさんの
はなしが　おもしろくて、
かえるのが
おそくなった　ふたりは
ミンチンせんせいに
ひどく　しかられました。

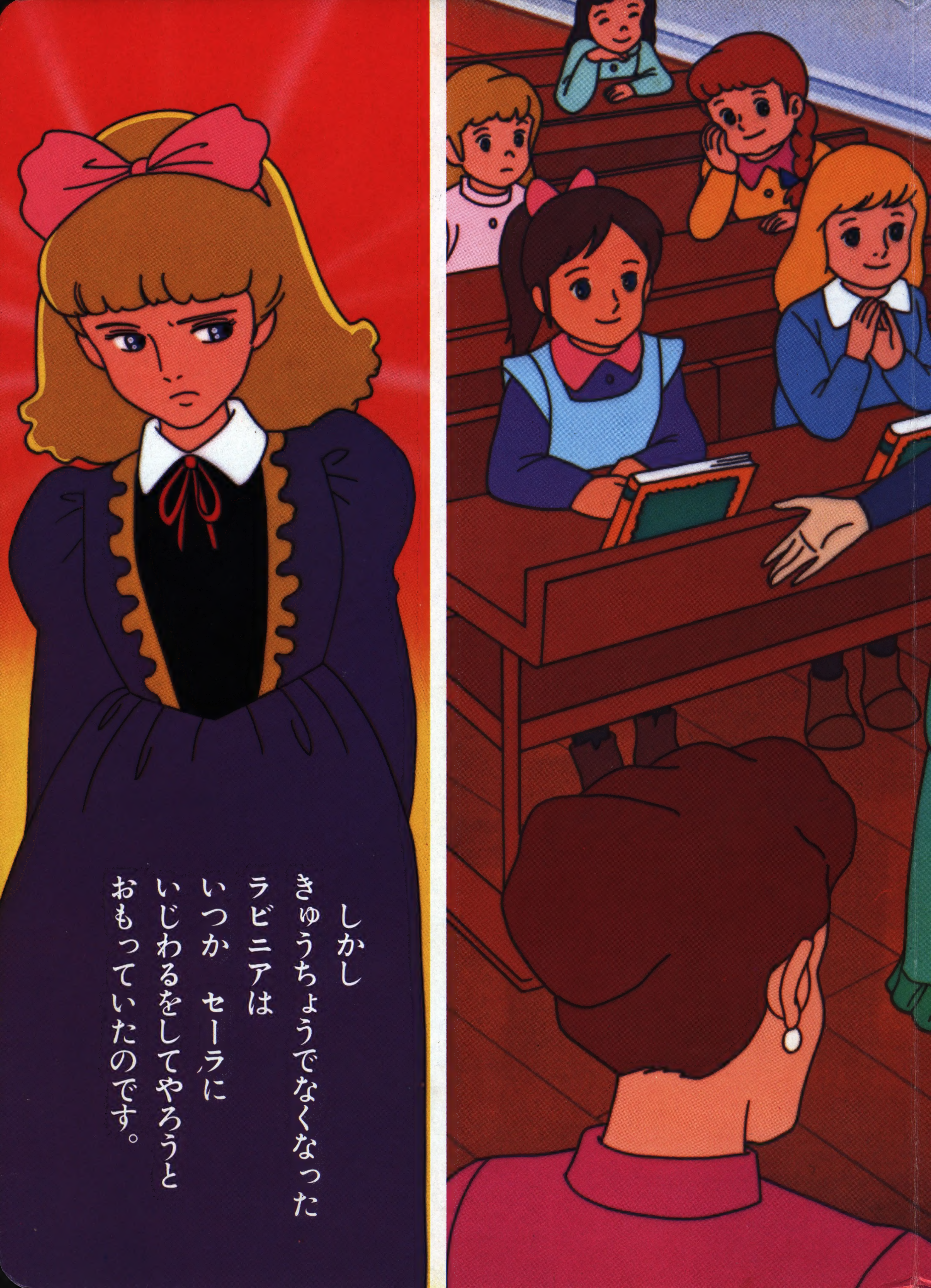
セーラは　また、四さいの
ロッティとも
ともだちに　なりました。
ロッティも　おかあさんが
いないので、さみしがりやの
なきむしで　ラビニアたちに
きらわれていたのです。
セーラは　ロッティを
じぶんの　へやに　つれてきて
なぐさめてあげました。
「わたしにも
おかあさんが　いないのよ。
わたしが　ロッティの
おかあさんに　なってあげるわ」
「ほんと……わあ
うれしいな」





まちの　えらい
ごふじんたちが　がっこうの
べんきょうを　みにきました。
ミンチンせんせいは
ラビニアの　かわりに、セーラを
きゅうちょうに　しました。
セーラは　ごふじんたちに
りっぱな　フランスごで
あいさつをし、ミンチンせんせいは
すっかり　はなを　たかくしました。

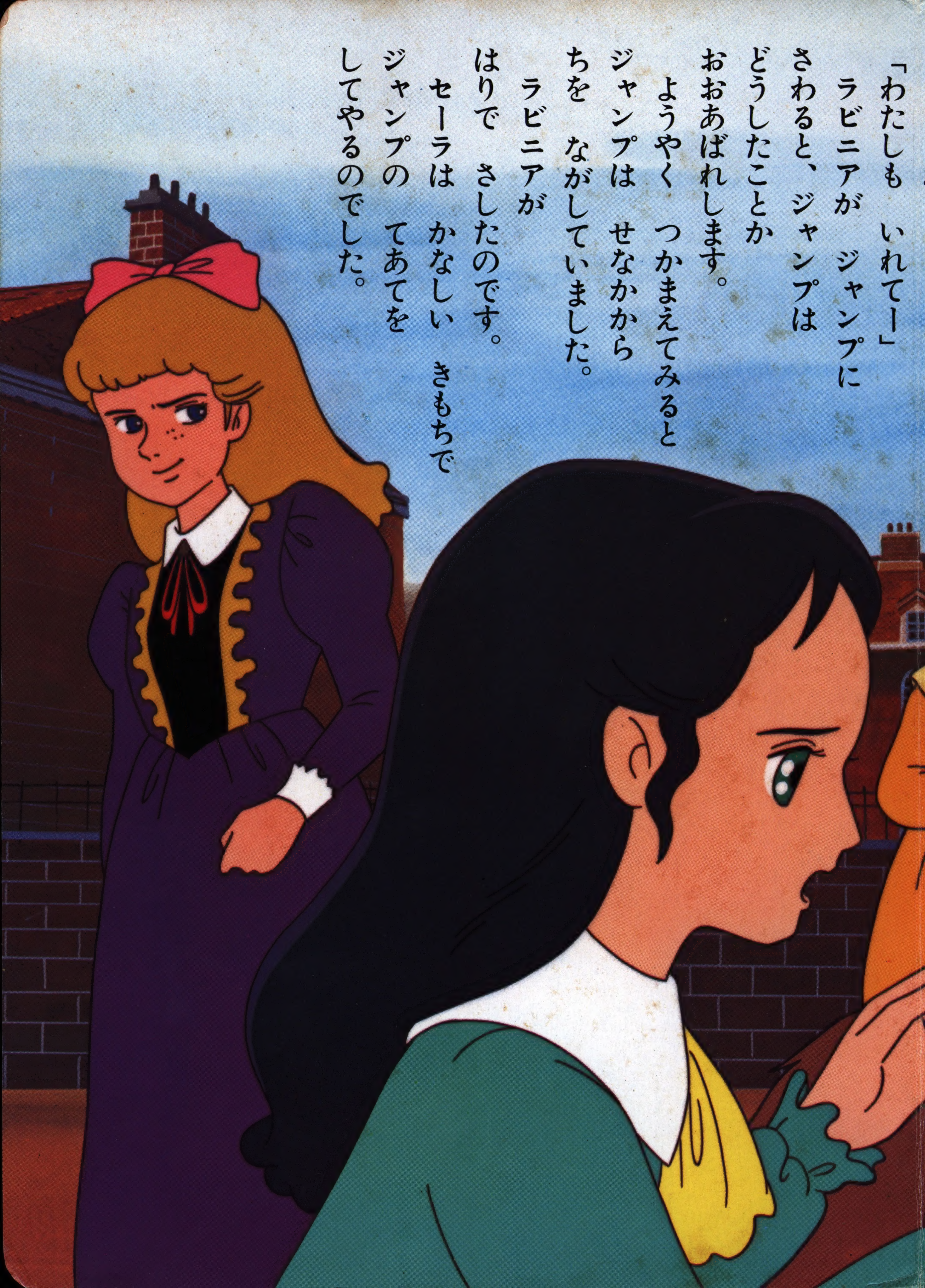




しかし
きゅうちょうでなくなった
ラビニアは
いつか　セーラに
いじわるをしてやろうと
おもっていたのです。

セーラたちが　にわで
こうまの　ジャンプと
あそんでいると、
ラビニアが　きました。





「わたしも　いれてー」
ラビニアが　ジャンプに
さわると、ジャンプは
どうしたことか
おおあばれします。
ようやく　つかまえてみると
ジャンプは　せなかから
ちを　ながしていました。
ラビニアが
はりで　さしたのです。
セーラは　かなしい　きもちで
ジャンプの　てあてを
してやるのでした。

プリンセス 小公女セーラ



朝日ソノラマ　EM-380　小公女セーラ①　定価380円
発行所＝㈱朝日ソノラマ　東京都中央区銀座4—2—6
発行人＝喜久村 繁　振替＝東京2-40311　印刷・製本＝本州印刷紙器・大村製本
JASRAC日本音楽著作権協会(出)許諾第8460101-401号